

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価 ＜C票＞ 第三者評価結果 【神学部】

教育研究目標 1

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 2名	左記を選択した理由： ・基礎学力の錬成と科目の充実そのものの関係は明確と思われます。(評価者B) ・専門基礎科目および宗教学関連科目の充実を目標としているからです。(評価者C)
「具体的でない」 1名	左記を選択した理由： ・「国際社会に必要な基礎学力」というものが具体的にどういうことなのか分かりにくい。「国際社会で活躍するために必要な」という意味だろうと思いますが、その必要な基礎学力とは具体的にどのようなもののでしょうか。もう少し具体的に書いていただければと思いました。(評価者A)
その他気づいた点： ・国際化を明確に打ち出していて、方向性は極めて明瞭です。(評価者A) ・国際社会との対話を視野に入れた文言を少し追加することが期待されます。(評価者B)	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 (設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)	<評価者からのコメント> ・宗教的な素養を中心に、国際的な視点から教育目標を定めた点は評価されます。具体的に、どのような科目群、履修体系を打ち立てるかは今後の検討に寄りますが、意欲的でもあり、客観的・情況的にも妥当です。(評価者A) ・背景や課題を踏まえて、科目を充実させることでどのような学生を育成できるのかについて、もう少し記載することを期待します。(評価者B) ・専門基礎科目および宗教学関連科目の充実、神学部の特長を伸長させる意欲的な取り組みです。(評価者C)
評価指標 (目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)	<評価者からのコメント> ・語学研修・留学に参加する学生の増加、また海外文化体験等の科目設置という指標や尺度は考えられないのでしょうか。記述された評価尺度、指標ともに、あまり具体的ではありません。(評価者A) ・成果の内容を特定できるような指標を設定することが望まれます。(評価者B) ・目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当です。(評価者C)
目標達成スケジュール (目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))	<評価者からのコメント> ・2017年度から21年度まですべて行動計画の実施と評価となっているため、成果に対する段階的な評価の経緯が見えづらいと思われます。(評価者B) ・目標達成に向けたスケジュール設定は適切です。(評価者C)

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在以上の徹底した少人数教育を実施するという点で、非常に具体的である。（評価者A） ・ 明確な繋がりが有るといえます。（評価者B） ・ 少人数クラスを開講することで、学部内の教育の充実をめざしているからです。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
<p>その他気づいた点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「専門研究者の育成」という表現は、学部教育の目標としては違和感があります。なぜならば、この表現は大学院教育の目標として用いられるからです。（評価者A） 	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>（設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神学部の特長（少人数教育）をより伸長させ、意欲的で優れた目標であるが、少人数教育を徹底していけば当然クラス増を伴います。クラス増になれば、クラスごとの（担当教員による）偏差が大きくなります。また教員を増やさなければ、教員の負担増になります。この辺りの手当をどのように考えているのか、不明です。（評価者A） ・ 背景や課題の内容をもう少し明確にした上で、少人数教育によってどのような学生を育成できるのかについて記載することが望まれます。（評価者B） ・ 少人数クラスを開講することで、学部内の教育の充実することは妥当な目標です。（評価者C）
<p>評価指標</p> <p>（目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当だと思われます。（評価者A） ・ 入学年度との関連で年度毎の指標の表記の妥当性の検討が期待されます。（評価者B） ・ 目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当です。（評価者C）
<p>目標達成スケジュール</p> <p>（目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切です。（評価者A） ・ 例えば、2015年度生は既に4年次の「研究演習C、D」の開講が規程されているのか等について、分かりづらいように思われます。（評価者B） ・ 目標達成に向けたスケジュール設定は適切です。（評価者C）

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	左記を選択した理由： ・ 「ディアコニア・プログラム修了者から社会福祉事業従事者・NPO 活動従事者を輩出することを目標」としており、教育目標との関係性も明瞭で、具体的である。（評価者A） ・ 関連性については、分かりやすいと思います。（評価者B） ・ ディアコニア・プログラムやハンズオン・プログラムを充実させることを計画しているからです。（評価者C）
「具体的でない」 0名	左記を選択した理由： その他気づいた点： ・ ディアコニア・プログラムの名称は、一般には知られていないので、どのようなプログラムかを簡単に説明する必要があるように思います。（評価者C）
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 妥当、適切である。（評価者A） ・ ディアコニア・プログラムの開始の背景にあった学生の現状、課題などを踏まえて記載するとより分かりやすい内容になると思います。プログラムは意欲的な内容と推察されます。（評価者B） ・ ディアコニア・プログラムやハンズオン・プログラムを充実させることを計画しており、神学部の特長を伸長させる内容です。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 妥当である。（評価者A） ・ 妥当と思われます。（評価者B） ・ 目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当です。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 適切である。（評価者A） ・ 尺度と整合させた表記（A～D）にするとより明確と思われます。（評価者B） ・ 目標達成に向けたスケジュール設定は適切です。（評価者C）

教育研究目標 4

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 「大学院との合併授業を充実させる」ということであり、それによって大学院進学者を増やすということですから、具体的です。(評価者A) ・ 分かりやすく具体的です。(評価者B) ・ 大学院との合併授業を充実させるという具体的な提案がなされているからです。(評価者C)
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
<u>その他気づいた点：</u> ・ 「専門研究者の育成」という表現は、学部教育の目標としては違和感があります。なぜならば、この表現は大学院教育の目標として用いられるからです。(評価者A)	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 (設定された6年後のめざす姿(目標)の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)	<u><評価者からのコメント></u> ・ 概ね、妥当、適切であると思われます。(評価者A) ・ 少人数の特性を活かした積極的な取り組みと評価されます。(評価者B) ・ 大学院との合併授業を充実させるという具体的な提案は、客観的に見て妥当であり、評価できます。(評価者C)
評価指標 (目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当であると思われます。(評価者A) ・ 妥当と思われます。(評価者B) ・ 目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当です。(評価者C)
目標達成スケジュール (目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切です。(評価者A) ・ 2016年度以降全てA段階になっており、修正が必要です。(評価者B) ・ 目標達成に向けたスケジュール設定は適切です。(評価者C)